

ニューヨーク市とその郊外における人口増加の逆転－東京との比較－

2014 年 10 月 31 日

■ ニューヨーク市の人口増加、過去 70 年間で初めて郊外を上回る

今年の 9 月に発表されたラトガース大学の報告¹によると、第二次世界大戦以降はじめてニューヨーク市内 5 つの区の人口増加がロングアイランド、ニュージャージー州、コネチカット州南西部の合計よりも多くなっていることが分かった。ロイター、AM New York などが報じている²。

報告は、ニューヨーク市及びハドソン川対岸のニュージャージー州の 3 カウンティからなる地域中核 (regional core) と、その周辺の 4 州にまたがる 27 カウンティからなる郊外部 (suburban ring) の二つの地域に分けて人口増加を比較したところ、1950～1980 年の 30 年間で郊外部が 530 万人以上の人口増加を見せていた一方で地域中核が約 100 万人弱の人口減であったのに対し、2010～2013 年においては地域中核で郊外部のおおよそ倍の人口増加が見られたことを明らかにしている。

報告書の著者であるラトガース大学公共政策スクールのジェームズ・W・ヒューズ学部長およびジョセフ・J・セネカ教授は、こうした変化の一部が 20 代人口の増加によってもたらされており、1970～1980 年のベビーブーム世代では 20 代人口の増加の 96% (363,595 人) が郊外部に集中していたのに対し、エコーブーマー／ミレニアル世代³では郊外部で 56% (137,348 人)、地域中核で 44% (107,872 人) の人口増加が見られたことを指摘する。著者らは、こうした変化が数多くの要因に基づくものであるとしながらも、ニューヨーク市内の生活環境の改善、リーマンショック後の不況による職場立地の変化や持ち家志向の減退、ミレニアル世代の都心居住志向などを、その原因に挙げている。

表 1 ニューヨーク都市圏、周辺部における人口の増減

<人口>(単位:人)

	1950 年	1960 年	1970 年	1980 年	1990 年	2000 年	2010 年
地域中核 (regional core)	9,843,481	9,820,518	9,977,230	8,983,821	9,147,688	9,933,427	10,129,867
郊外部 (suburban ring)	5,675,530	8,362,501	10,457,398	10,999,269	11,607,423	12,608,161	13,234,847
計	15,519,011	18,183,019	20,434,628	19,983,090	20,755,111	22,541,588	23,364,714

¹ “The Receding Metropolitan Perimeter: A New Postsuburban Demographic Normal”, written by James W. Hughes and Joseph J. Seneca, Rutgers Regional Reports no.37, September 2014.

(<http://policy.rutgers.edu/reports/rrr/RRR37sept14.pdf>)

² ロイター(2014/9/29)「米『エコーブーマー』世代、NY 郊外から都市部に回帰」
<http://jp.reuters.com/article/oddlyEnoughNews/idJPKCN0HQ2UL20141001>。

AM New York (2014/9/30) “New York City's population growth exceeds the suburbs: Report”,
<http://www.amny.com/news/new-york-city-s-population-growth-exceeds-the-suburbs-report-report-1.9450321>。当該記事の紹介は、Japan Wide ニュース(2014/10/1)「ニューヨーク市の人口増加、過去 70 年間で初めて郊外を上回る」
<http://www.jwide.com/news/news.htm?id=4223>。

³ ミレニアル世代(Millennials)とは、おおむね 1980 年代から 2000 年初頭までに生まれた世代のことを指す言葉である。ミレニアル世代は、エコーブーマー(Echo Boomers)とも呼ばれ、米国ではベビーブーマーの次に出生率の高かった時代に生まれた世代に当たる。

＜人口増減＞（単位：人）

	1950 ～1960 年	1960 ～1970 年	1970 ～1980 年	1980 ～1990 年	1990 ～2000 年	2000 ～2010 年	2010 ～2013 年
地域中核 (regional core)	-22,963	156,712	-993,409	163,867	785,739	196,440	255,853
郊外部 (suburban ring)	2,686,971	2,094,897	541,871	608,154	1,000,738	626,686	113,227
計	2,664,008	2,251,609	-451,538	772,021	1,786,477	823,126	369,080

(source: U.S. Census Bureau)

■ 東京における都市中心部への人口増加の集中傾向の検証

このようなニューヨーク市における変化と同様に、都市中心部への人口増加の集中傾向が東京にも見られるかどうかを検証するために、1950 年以降の国勢調査人口の増減を、東京 23 区とその周辺の一都三県との間で比較してみた（表 2）。

東京では今のところ、直近の 2005～2010 年の人口増減においても、中心部と周辺部との間で逆転現象は発生していない。しかしながら、1970～1975 年には人口増減数において 300 万人以上の差があったのが、最近では 20 万人程度の差にまで縮まってきていることから、ニューヨーク市にて観測されたような人口増減の逆転現象が、近い将来に東京でも観測される可能性は十分に有り得ると考えられる。

表 2 東京 23 区、一都三県における人口増減（単位：人）

年	特別区部		一都三県 (23 区除く)		合計 (一都三県)	
		(増減)		(増減)		(増減)
1950	5,385,071	—	7,665,576	—	13,050,647	—
1955	6,969,104	1,584,033	8,455,160	789,584	15,424,264	2,373,617
1960	8,310,027	1,340,923	9,553,832	1,098,672	17,863,859	2,439,595
1965	8,893,094	583,067	12,123,646	2,569,814	21,016,740	3,152,881
1970	8,840,942	-52,152	15,272,472	3,148,826	24,113,414	3,096,674
1975	8,646,520	-194,422	18,395,269	3,122,797	27,041,789	2,928,375
1980	8,351,893	-294,627	20,346,640	1,951,371	28,698,533	1,656,744
1985	8,354,615	2,722	21,918,563	1,571,923	30,273,178	1,574,645
1990	8,163,573	-191,042	23,633,129	1,714,566	31,796,702	1,523,524
1995	7,967,614	-195,959	24,608,984	975,855	32,576,598	779,896
2000	8,134,688	167,074	25,283,678	674,694	33,418,366	841,768
2005	8,489,653	354,965	25,989,250	705,572	34,478,903	1,060,537
2010	8,945,695	456,042	26,672,869	683,619	35,618,564	1,139,661

(source: 総務省統計局「国勢調査」)

そこで、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口から、今後どの時期に人口増減の逆転現象が起り得るかを検証した（表 3）。

将来推計人口においては、この先 2015 年頃には東京 23 区とその周辺の一都三県との間で人口増加の速度がほぼ同一となり、その後両地域ともに人口減少に転ずるものの、その減少は郊外部においてより急速に進むことが見てとれる。東京全体が人口減少基調になるという点では、置かれた環境がニューヨーク市とは異なるが、人口増減の逆転現象が近い将来、早ければ数年後には起り得るという点では、東京とニューヨーク市との間でそれほど大きな違いはないと考えられる。

表3 東京23区、一都三県の将来人口推計における人口増減(単位:人)

年	特別区部	一都三県		合計	
		(増減)	(23区除く)	(増減)	(一都三県)
2010	8,945,695	—	26,672,869	—	33,658,390
2015	9,084,451	138,756	26,811,473	138,604	33,678,326
2020	9,061,086	-23,365	26,631,789	-179,684	33,331,067
2025	8,973,870	-87,216	26,192,542	-439,247	32,681,757
2030	8,829,189	-144,681	25,562,840	-629,702	31,811,199
2035	8,634,634	-194,555	24,789,019	-773,821	30,771,071
2040	8,395,687	-238,947	23,918,247	-870,772	29,614,333

(source: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」)

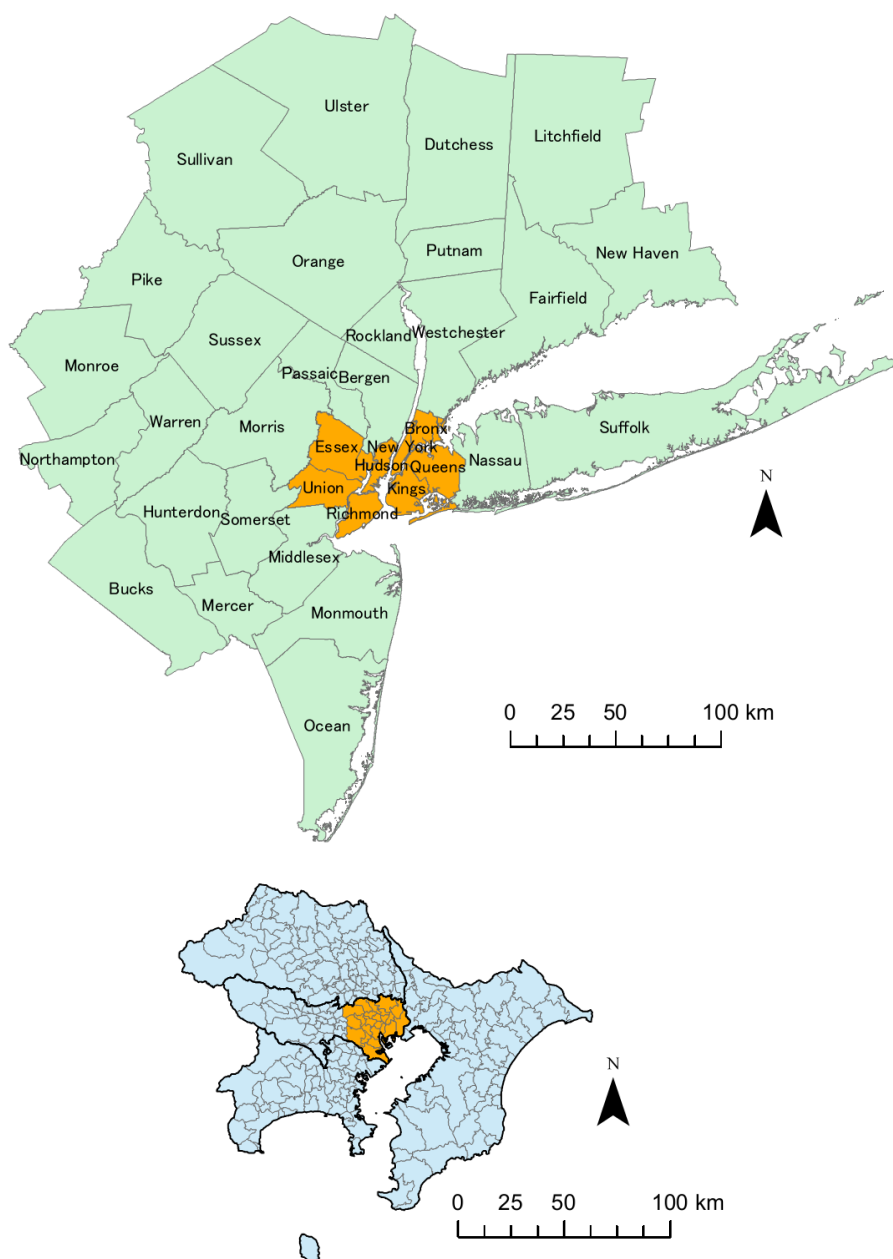
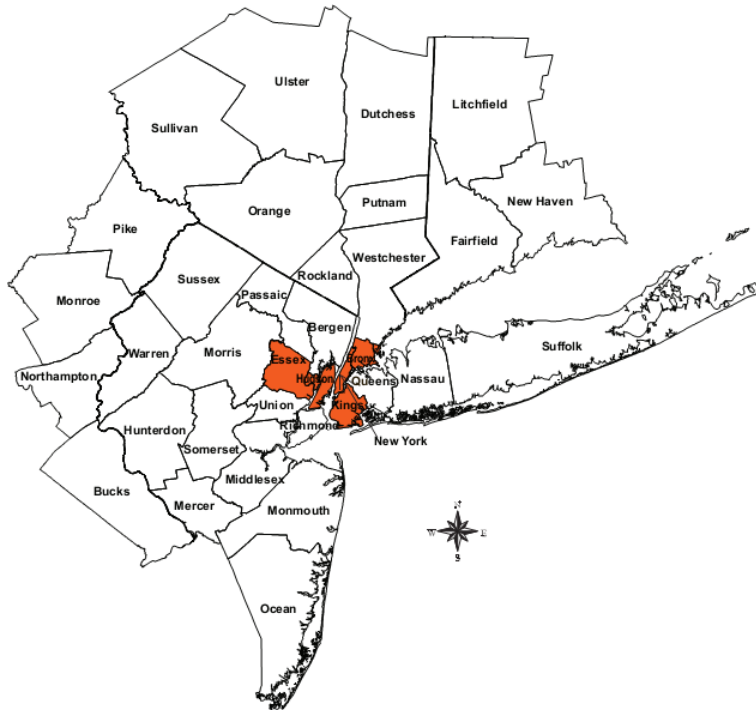


図1 ニューヨークの地域中核(橙色)・郊外部と、東京23区(橙色)・一都三県

Counties with Population Decline, 1950–1980



Counties with Population Decline, 2010–2013

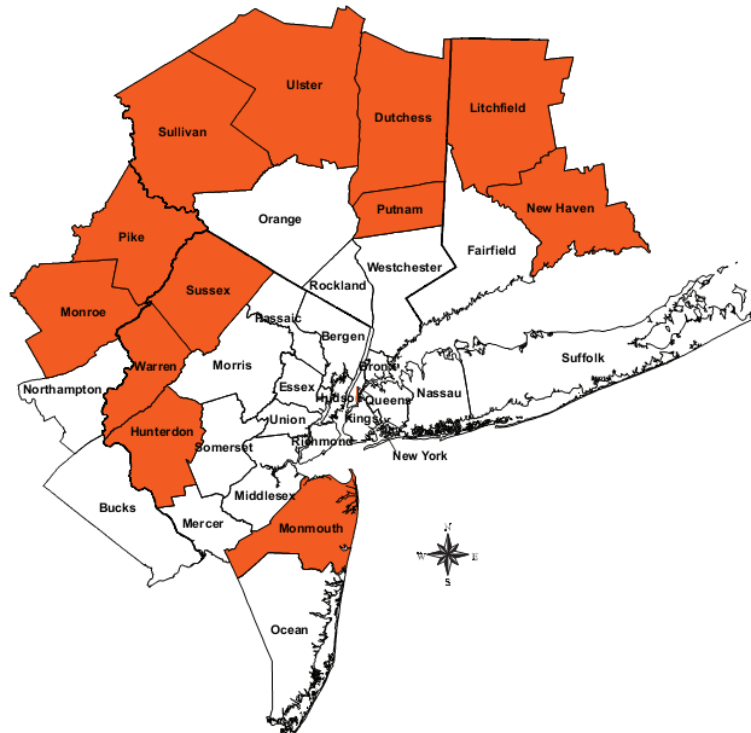
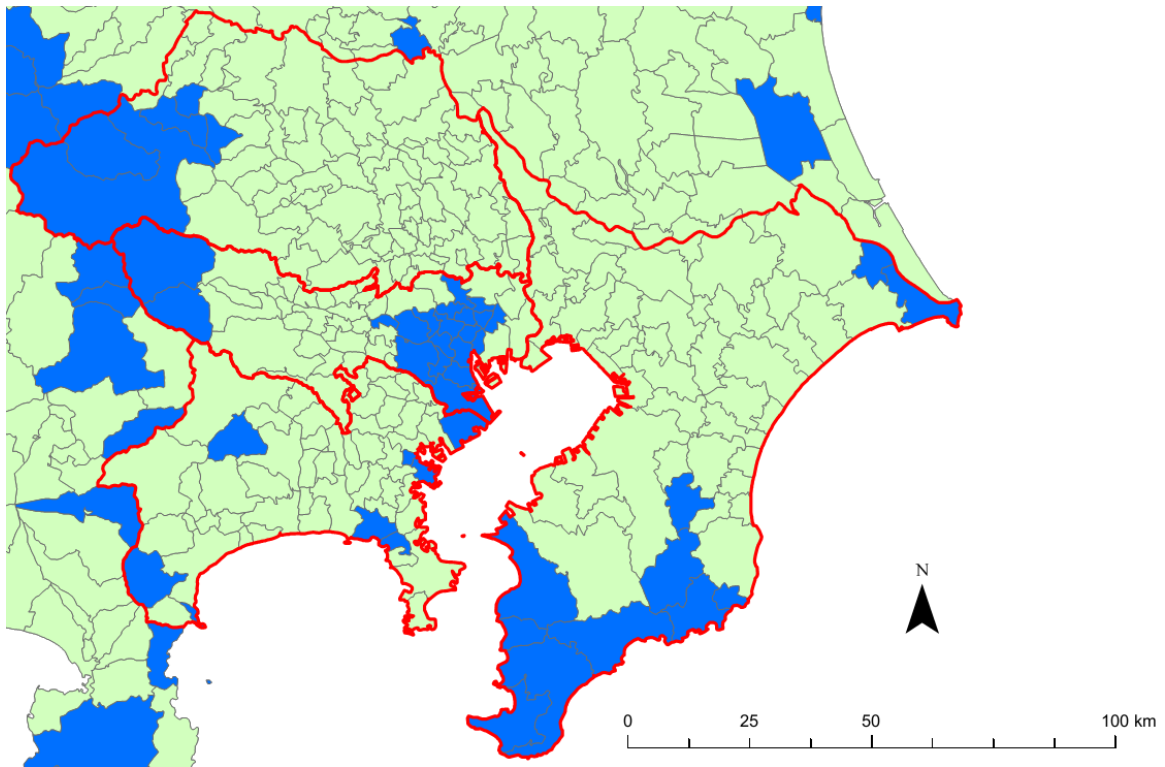


図2 ニューヨーク市周辺における人口減少カウンティ（橙色）の経年変化⁴

⁴ 出典は脚注1参照。

<1980～1995 年>



<1995～2010 年>

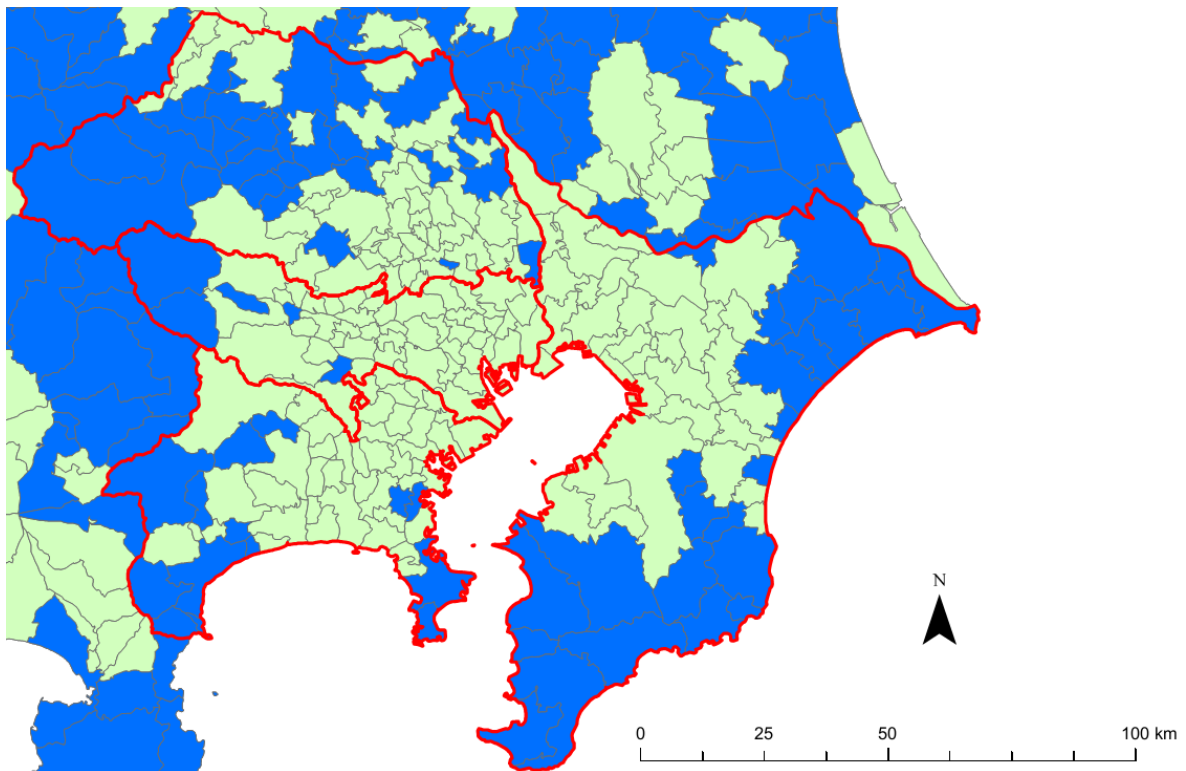


図3 一都三県における人口減少市区町村（青色）の経年変化⁵

（白川 慧一）

⁵ 総務省統計局「国勢調査」をもとに作成。